

チームけせんの和 だより

2017
vol.16
9月号

発行 陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字鳩石42-5 TEL 0192-54-2111 FAX 0192-55-6118

「チームけせんの和」に寄せて

医療法人 勝久会 小規模多機能ホーム「厨」 所長 佐々木 祐哉



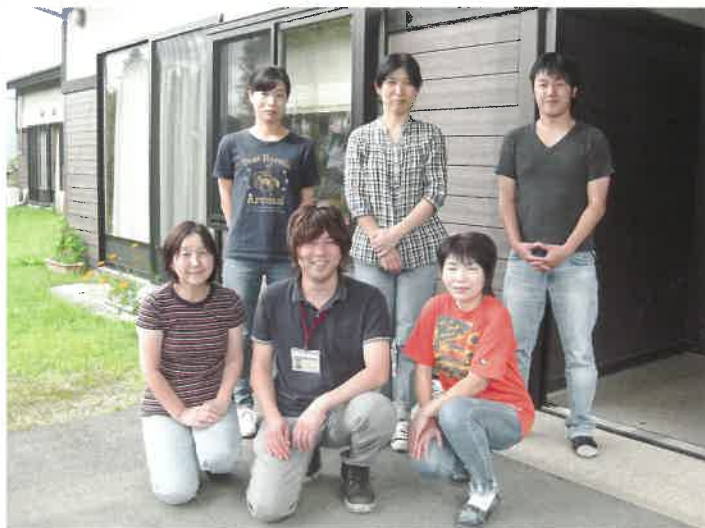
今年の6月に異動してまいりました小規模多機能ホーム「厨（くりや）」所長の佐々木祐也です。昭和52年生まれの40歳になりました。以前は小友にありますが「小百合」の所長をしておりました。

「厨」は、陸前高田市初の小規模多機能型居宅介護事業所として平成20年8月に開所しました。現在は市内4か所で運営されている小規模多機能サービスについて少し説明させていただきます。

小規模多機能ホームは2006年4月、介護保険法改正により制度化され誕生した比較的新しい地域密着型サービスです。

サービス内容は、利用者や家族の状態にあわせて、「通い」を中心に、「泊まり」や「訪問」といったサービスを、柔軟に組み合わせて受けられます。3つのサービスを同じ建物、職員が提供できることは昨今増加している認知症の方への環境変化の影響も少なく、大規模施設とは違い、小規模な民家のような施設の中で、介護や支援を提供することにより、気の知れた仲間同士と家庭的な雰囲気でご過ごすことができます。厨では、家族の出勤と同時に来て、夕方一緒に帰る方、夕食を食べてから帰る方、もちろん急な泊まりも即日対応と柔軟に対応しております。

市内では高齢化はもちろん、最近は独居の方や老々介護の相談が多くなってきています。「チームけせんの和」の会員の皆さんと連携しながら様々な課題に共に取り組んでいけたらと思います。今後とも「厨」をよろしく願いいたします。





認知症初期集中支援チーム



陸前高田市 民生部 保健課地域包括支援センター 保健師 蒲生 紋子

認知症初期集中支援チームとは？

複数の専門職（保健師、看護師、臨床心理士等）が、家族等からの相談を受け、認知症が疑われる人やその家族を訪問してお話を聞いて状況を確認し、認知症のサポート医と連携をとりながら早期診断や早期対応について集中的に支援します。

チームの目的

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるように、認知症の人やその家族に早期に関わり、早期診断・早期対応に向けた支援体制をつくることを目的とします。

対象者

40歳以上で市内の自宅で生活をしている方で、以下のいずれかに該当する方。

- (1) 認知症の診断を受けたことがない、または治療を中断している。
- (2) 継続的な医療サービスや介護サービス等を受けていない。
- (3) 何らかのサービスを利用しているが、認知症による症状が強く対応に困っている。



利用について

ご相談、訪問等費用はかかりません。会員の方が担当している方で心配な方がいらっしゃいましたら、陸前高田市地域包括支援センターにお問い合わせください。



チームけせんの和 活動報告

平成29年8月30日（水）

米崎地区コミュニティセンター和室

平成29年度第3回研修会（29人参加）

講演「第2回プライマリケアとしての東洋医学」各論編

講師 さの鍼灸治療室 鍼灸師

藤林先生の「チームけせんの和」での講演は、今回で2回目となりました。藤林先生は、震災直後から東京と東北を往復してボランティアで支援活動をした後、2015年1月から米崎町の仮設店舗で鍼灸治療を行っています。研修会では、鍼灸、東洋医学の歴史と、鍼灸の効果を教えて頂きました。鍼灸は、老若男女すべての方が利用でき、身体のさまざまな症候・症状を治療対象として効果が認められているそうです。今回は、大和田会長をはじめ、数名のメンバーが実際の鍼治療を体験し、会場が盛り上がりました。2020年の東京オリンピックでも鍼灸師の関わりが公式に決まっているとのことで、ますます鍼灸の活躍が期待されそうです。



★劇団ばばば☆ 公演報告★

8月31日（木）19：00～ 「くすりは正しく使おう！」

気仙薬剤師会の皆様のご協力によって完成した、劇団ばばば☆の第4作目となる寸劇「くすりは正しく使おう！」の初公演が行われました。この寸劇は、4つのテーマで構成されています。一つ目は、薬を飲み忘れたらどうすればいいか？、二つ目は、薬が大きくて飲みにくい時はどうすればいいか？、三つ目は、人の薬をもらって使ってもいいのか？、四つ目は、医薬分業についての説明になっています。「チームけせんの和」のメンバーの薬剤師、二又診療所の職員、事務局スタッフたちの熱演により、薬の正しい使い方についてわかりやすく学べる良い機会になりました。寸劇の後には、二又診療所の石木幹人所長と気仙薬剤師会の大坂敏夫会長による、主に医薬分業に関する講話もありました。最後は質疑応答の時間も設けられ、参加者より、「今までの薬の飲み方は間違っていた。正しい飲み方がわかって良かった。」との声がありました。より多くの方々に、“意外と知らない薬の正しい飲み方や扱い方”を、寸劇でわかりやすく、楽しく学んでいただきたいと思います。みなさんの職場やお住いのコミュニティで、劇団ばばば☆の「くすりを正しく使おう！」の公演を希望する方は、「チームけせんの和」の事務局までご連絡をくださいね！

於：国保二又診療所医師住宅

キャスト・スタッフ

出 演：黄川田尚史（森の前薬局） 菅野郁恵（二又診療所）
熊谷質子（地域包括ケアコーディネーター）
高橋恵美子（二又診療所） 藤原奈美（二又診療所）
高橋愛美（そうごう薬局） 大坂敏夫（気仙中央薬局）

ナレーター：行本清香（地域包括ケアコーディネーター）

脚 本：細川明子（つくし薬局）

アドバイザー：気仙薬剤師会、金野良則（気仙中央薬局）

事務局：菅野郁恵（二又診療所） 蒲生紋子（地域包括支援センター）

制作統括：陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）



9月3日（日）14：30～ 第36回健康のつどい

「楽しく学ぼうステージコーナー」

「転倒予防～転倒知らずは寝たきり知らず～」

久々の公演依頼で、急遽の声がけにもかかわらず団員の態勢作りはみごとにまとまりました。練習の時から、俳優・女優・大道具・小道具みな発声も動きも良くスムーズな流れで本番に臨みました。当日の熱演で、会場からは納得のうなり声や子供の笑い声、デュアルタスク説明の場面では会場の皆さんも参加して来場者からの大きな反応がありました。また、当日は小道具担当の中野さん手作りの鍋焼きや漬物も劇中に登場し劇をさらに盛り上げました。参加者の皆さんご協力ありがとうございました。

於：シンガポールホール

キャスト・スタッフ

出 演：佐々木康裕（グループホーム つばき） 小林里美（特別養護老人ホーム高寿園）
平泉圭輔（訪問リハビリステーション さんぼ）
菅原達也（訪問リハビリステーション さんぼ）
千葉三和子（岩手高齢協すずらん） 熊谷敬子（東部デイサービス）
熊谷悠花（高田町 高校1年生）

ナレーター：熊谷悠花（高田町 高校1年生）

脚 本：湯浅淳（訪問リハビリステーション さんぼ）

大道具・小道具：中野信子（岩手高齢協すずらん） 杉山優子（訪問リハビリステーション さんぼ）
熊谷質子（地域包括ケアコーディネーター）

事務局：佐藤咲恵、蒲生紋子（地域包括支援センター）



9月4日（月）

「口腔ケア紙芝居小・中 version」

劇団ばば☆の寸劇を紙芝居にして、市民の健康向上のための啓発活動を積極的に行ってください。「陸前高田市保健推進員となかまの会」の皆さまが、気仙中学校で「口腔ケア」の紙芝居公演を行いました。その公演の様子が「陸前高田市保健推進員となかまの会だより No.36」に報告がありましたので、許可を得て、下記に転載させていただきました。ありがとうございました！

～「陸前高田市保健推進員となかまの会だより No.36」より転載～

陸前高田市在宅療養を支える会（チームけせんの和）の会長、大和田剛史先生臨席の下、保推となかまの会の“ばば”達は、勇気100倍で上演させて頂きました。上演後、感想を發表していただきました。「この紙芝居を見て解ったことは、①むし歯は放っておくと大変なことになる。②食生活にも気を付けていきたい。③歯磨きの大切さを楽しく学べた。④ペーパーゼートを使って解り易かった。⑤気仙弁でアットホーム感があり、味があって良かった。」等のお話をいただきました。大和田先生からは、「口腔ケアをしっかり行い健康な心と体を持つ大人になってほしい。」との願いのこもったお話をして頂きました。私たちの実演会のために、気仙中学校の方々には、学校を上げてのご協力を頂き、心より感謝いたします。気仙中の皆さん方の未来幸あれと祈念しております。本当に有難うございました。又、診療所の石木先生方にも来校しお話しして戴きました。遠藤、蒲生（恵）両保健師も駆け付けてくれました。有難うございました。口腔ケア紙芝居小・中校生 version これにて完成です！！健康教室時にでもどうぞご活用下さい。（封切公演を9/25 下矢作の保健推進員グループが矢小PTA向けに上演予定です！！張り切っているようなので、とても頼もしいです！）

於：陸前高田市気仙中学校



編集後記

今号の「チームけせんの和」だより Vol.16 では、劇団ばば☆の公演報告を久々に掲載できました。劇団ばば☆の目標は「健康への啓発活動」です。保健推進委員の方たちも「健康紙芝居」を作成して市内で活躍しています。このような活動が日常の健康対策に活かされて、健康寿命を延ばすことの一助になる事を願い「継続は力なり」をモットーに今後も進んでいきたいと強く持ちました。会員の皆さん、今後ともご協力よろしくお願ひします。